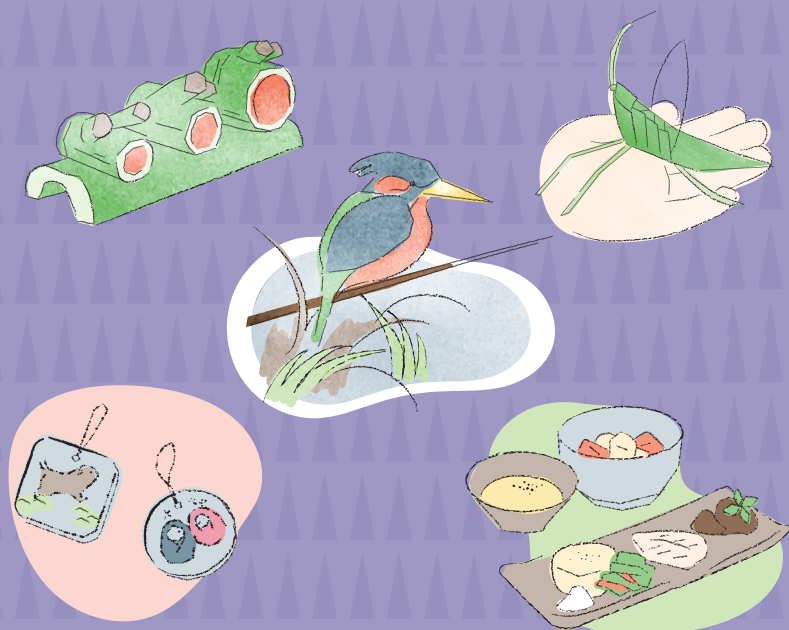


農泊をはじめよう！

実際に農泊の受け入れをするためにどんな準備が必要なのか、またどんな業務があるのかを紹介していきます。



農泊にはいくつかの営業スタイルがあり、あなたのライフスタイルにあわせて、無理なく楽しく農泊をはじめることができます。

営業スタイル	内容
通年型	一年を通じて受け入れを行うスタイル
季節型	夏休みや春休みなどの長期休暇、農閑期等を利用し、受け入れ時期を限定して受け入れを行うスタイル
週末型	土曜、日曜・祝日のみ受け入れを行うスタイル
目的型	子どもの宿泊体験や教育旅行のみ受け入れるなど目的を限定して受け入れを行うスタイル

農村民泊受入家庭の仕事

農村民泊で受け入れをする際、お客様に快適に過ごしてもらうための準備も大切な仕事のひとつです。どんな準備が必要か、どんなことをしなければいけないのか確認していきましょう。

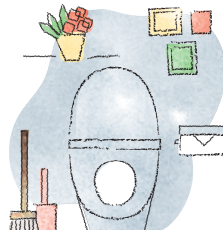
設備要件

下記の設備のような自宅の今ある設備で始めることができます。

洗面設備



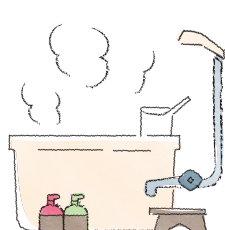
トイレ



台所※



お風呂



※農泊のサービス内容によっては、台所（自炊設備）を必要とする場合があります。

消防設備

もしもに備えて消防設備を整えておく必要があります。お客様が使用する部屋の面積に応じて必要な消防設備は異なります。

民宿用スペースの面積	必要な消防設備
民宿用面積が50㎡以下かつ 民宿面積が住宅用面積より小さい場合	○住宅用火災警報器
民宿用面積が50㎡以上	○住宅用火災警報器 ○防火物品の使用(カーテン、絨毯等) ○誘導灯・誘導標識の設置、避難器具
民宿用面積が150㎡以上の場合 ※全体の面積に関わらない	○住宅用火災警報器 ○防火物品の使用(カーテン、絨毯等) ○誘導灯・誘導標識の設置、避難器具 ○消火器または簡易消火用具

受入家庭の仕事

01

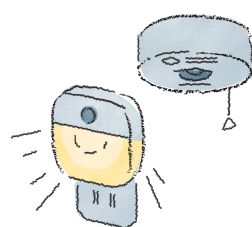
お客様の安全対策と利便性の確保

お客様に楽しんでもらうため、安全に考慮したサービスを行わなければなりません。起こりうるリスクを考え、対策を考えておく必要があります。

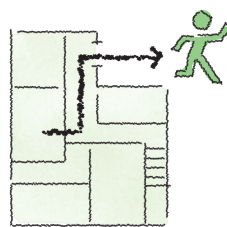
安全確保のポイント

1 宿泊施設は“もしも”に備えた設備を設置しましょう

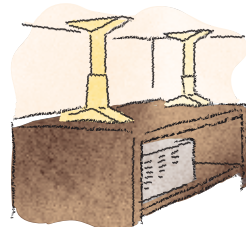
(例)



非常用照明器具の設置



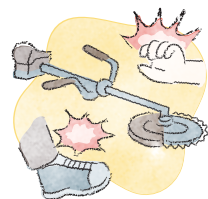
避難経路の表示



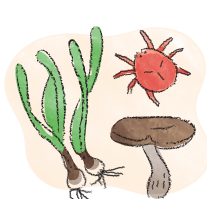
各災害に備えた措置

2 あらゆるリスクに備えて安全対策を行いましょう

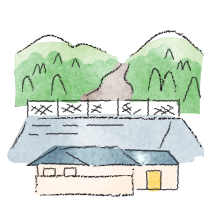
(例)



農機具などによる怪我や事故



毒虫、毒キノコなどの危険動植物



地震、がけ崩れなどの自然災害



宿泊者の食物アレルギーや食中毒

3 お客様の目線に立った施設案内を設置しましょう

- トイレや風呂等に看板をつける
- 照明スイッチにどの灯りかラベルにて明記する
- 客室をはじめトイレ、浴室、台所等お客様が利用する部屋と避難経路の案内 等



02

お客様の衛生の確保

お客様に気持ちよく農泊ライフを楽しんでいただくためには、掃除や洗濯、換気など衛生の確保をすることも受入家庭の大切な業務のひとつです。

衛生確保のポイント

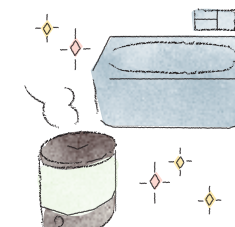
- 1 お客様の客室スペースを確保しましょう
- 2 清掃と換気をしっかり行い、お客様の目線で居心地のよい空間をつくりましょう



お客様の使用するすべての部屋や備品などは清潔に保ちましょう



寝具やカバーはお客様が入れ替わることに取り替えます

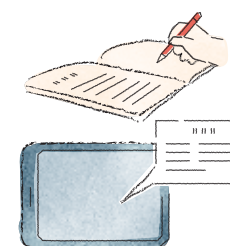


追い炊き機能付き風呂などの循環式浴槽や加湿器を備えている場合は、かならず水を入れ替えます

03

宿泊者名簿の備え付け

どんなお客様がいらっしゃったのかを宿泊者名簿を作成して、大分県へ報告をする必要があります。



宿泊者名簿備え付けのポイント

- 1 宿泊者名簿には、以下の内容を含めましょう

氏名	住所	職業	宿泊日	国籍※	旅券番号※
----	----	----	-----	-----	-------

※お客様が国内に住所を有しない外国人の場合のみ必要な項目です。ただし、旅券の写しがある場合は、「氏名」「国籍」「旅券番号」を省略することもできます

- 2 宿泊者名簿は作成日から3年間保存しましょう

安心院方式 農泊のおもてなし！

来てくれたお客様は、普段体験できない安心院ならではの生活を楽しみにいらっしゃいます。お客様がさらに喜んでくれるように、安心院方式の「おもてなし」をしてみませんか？

心の交流で第2のふるさとへ！

地域にある資源を最大限活用し、心の交流といった人的交流を重視して、1日1組のお客様と家族同様の時を過ごします。受入家庭ごとの「農業体験」、「農村体験」、「農食体験」を提供します。他の受入家庭が行っていることを、無理に真似するのではなく、普段の生活スタイルは変えることなく、ふるさとに帰ってきた家族を迎える気持ちでお迎えします。



手作りのウェルカムボードでのお迎えや、家族みんなでのお見送りなどのおもてなしで、お客様に「ただいま」や「いらっしゃいます」と言ってもらえるととても嬉しいです。

日頃の生活のお裾分け

ゆっくりと流れる安心院の農村時間の中で農作業を行い、収穫した食材を使用して食事を一緒につくる。そういった農村の生活スタイルは変えることなく、家族同様にお客様をお迎えします。おやつ作りや竹細工など自分たちが得意とする体験をお客様に提供するので、その家庭ごとに体験できるメニューが異なることも農泊の魅力です。安心院のあるがままの日頃の生活をお客様にお裾分けしましょう。



心を込めた地産地消料理

農村の豊かな食文化や旬の食材といった安心安全な農食へのこだわりと、農業体験で収穫した食材や地元食材をお客様と共に調理することで、「食べる」ことの幸せを感じていただきます。安心院の特産品や収穫した野菜を使用した料理、郷土料理など皆さんが得意な料理と一緒に作ってみてはいかがでしょうか。その時に隠し味や、ちょっとしたひと手間を加える理由などの説明をしてみるのも良いですね。



受入家庭の先輩の声

実はずっと前から農泊をやってみたいと思っていました。近所の方が農泊をやっていて、その家から聞こえてくる子どもさんの笑い声や田んぼを散歩している姿がとても楽しそうで「私たちも退職したら農泊をやりたいね」と二人で話していたんです。開業する時はわからないことだらけでしたが、面倒な手続きは市役所の方が全面的にサポートしてくれたので本当に助かりました。泊まりに来るのは修学旅行の生徒さんが多いですね。みんな良い子ばかりで楽しいですよ。ただ、農業体験で田んぼや山に行く時は、ケガをさせないように気を使います。でも、それ以外はあまり気を使わず、安心院の自然を楽しんでもらうことを第一に考えています。受け入れ人数は一度に4人までです。夫婦だけになった家は2人だと広すぎるけど、子どもさんが来るとにぎやかで家の中が明るくなるんですよ。一緒におやつを作ったり、竹細工を作ったり。たくさんの人と出会うことができ、私たち夫婦もみんなから元気をもらっています。

農泊を始めたことで、毎日の暮らしが楽しくなりました！



安心院
『あたしんち』
丹生 猛さん 夫妻
町子さん

農泊の魅力は、ありのままの暮らし。だから気負う必要はないんですよ。



舟板
昔ばなしの家
中山ミヤ子さん

最初の一年は、お客さんを母屋に泊めていました。冷暖房完備でトイレもシャワー式で、部屋には花を生けたりして。でもある時、都会から来たお客さんに「ここは農家民泊なんだから、旅館の真似をせずにありのままがいいのに」と言われたんです。それから考えを変えて、今は離れにお客さんを泊めています。とても古い建物なんですけど、いろいろご飯を食べて薪でお風呂を沸かす生活をみなさん喜んでくれていますよ。ウチに来てくれた人は、親戚だと思って接しています。学生さんなら孫ですね。久しぶりに故郷に帰ってきた時のように、自然体で迎えています。困ったことはないけれど、嬉しかったことはたくさんありますよ。この場所で多くの人と知り合えたことが、私の財産です。昔からの常連さんは「ただいま！」って言って来ますし、ずっと体調を崩していた学生さんがウチに来て一週間で元気になったり。そういう時に、農泊をやっていてよかったと思います。もしやってなかったら、田んぼと家を往復するだけの毎日だったでしょうね（笑）。